

2016 年 2 月 23 日

報道関係 各位

一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会

事務機械の「全世界出荷に関する 2015 年の見込み
及び 2016 年～2017 年の予測」の発表

一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会（会長：松崎 正年／コニカミノルタ株式会社 取締役会議長）は、この度、全世界市場を対象とした事務機械の出荷に関する見込み及び 2 年間の予測をとりまとめましたので発表致します。

なお、この出荷見込み及び予測の調査にあたっては、外部の調査機関（株式会社データ・サプライ、株式会社テクノ・システム・リサーチ）に委託し、取りまとめを行いました。ホームページに掲載しております事務機械出荷実績（JBMIA 集計）、複写機・複合機出荷統計（JBMIA 集計）は、会員企業の出荷実績のみであることから、今回の予測に用いている数値（全世界メーカーによる出荷合計）とは異なりますのでご注意ください。

また、本予測数量及び金額は、事務機械本体のみを対象としています。

2015 年出荷見込み

国 内：	3, 6 6 6 億円（前年比： 9 5. 0 %）
海 外：	1 5, 8 1 7 億円（前年比： 1 0 5. 7 %）
総出荷：	1 9, 4 8 3 億円（前年比： 1 0 3. 5 %）

2016 年予測

国 内：	3, 5 1 0 億円（前年比： 9 5. 8 %）
海 外：	1 5, 4 8 3 億円（前年比： 9 7. 9 %）
総出荷：	1 8, 9 9 3 億円（前年比： 9 7. 5 %）

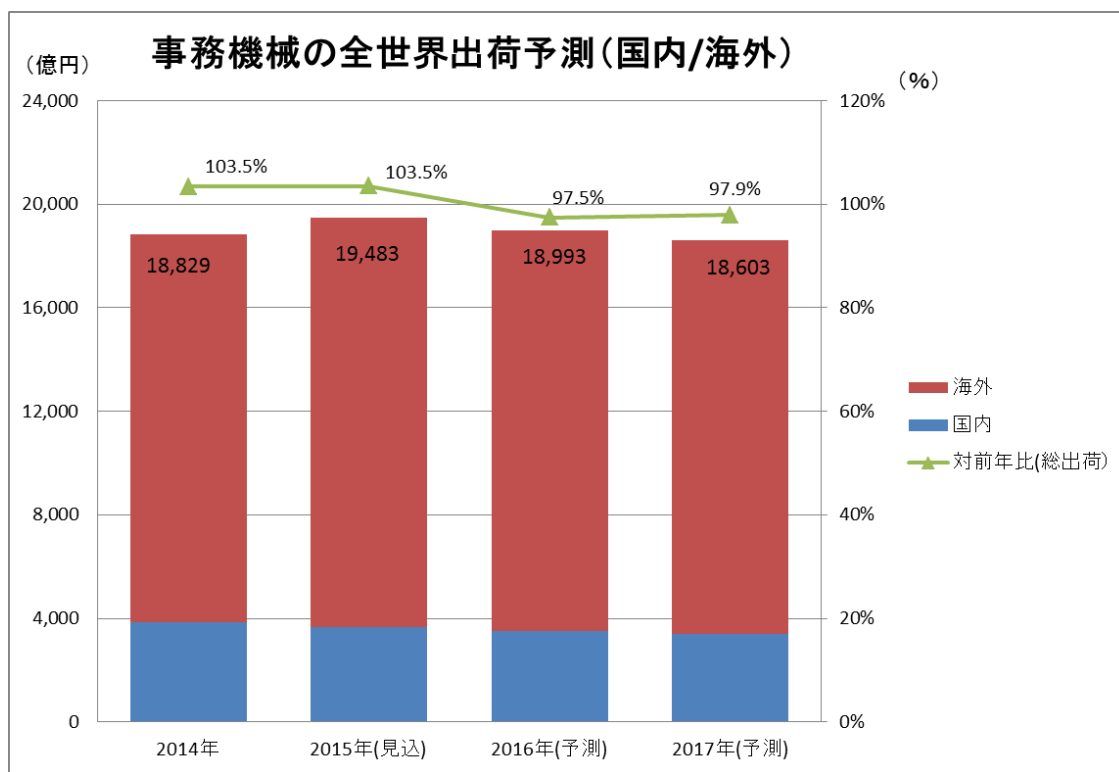
2017 年予測

国 内：	3, 3 9 8 億円（前年比： 9 6. 8 %）
海 外：	1 5, 2 0 5 億円（前年比： 9 8. 2 %）
総出荷：	1 8, 6 0 3 億円（前年比： 9 7. 9 %）

<注釈>

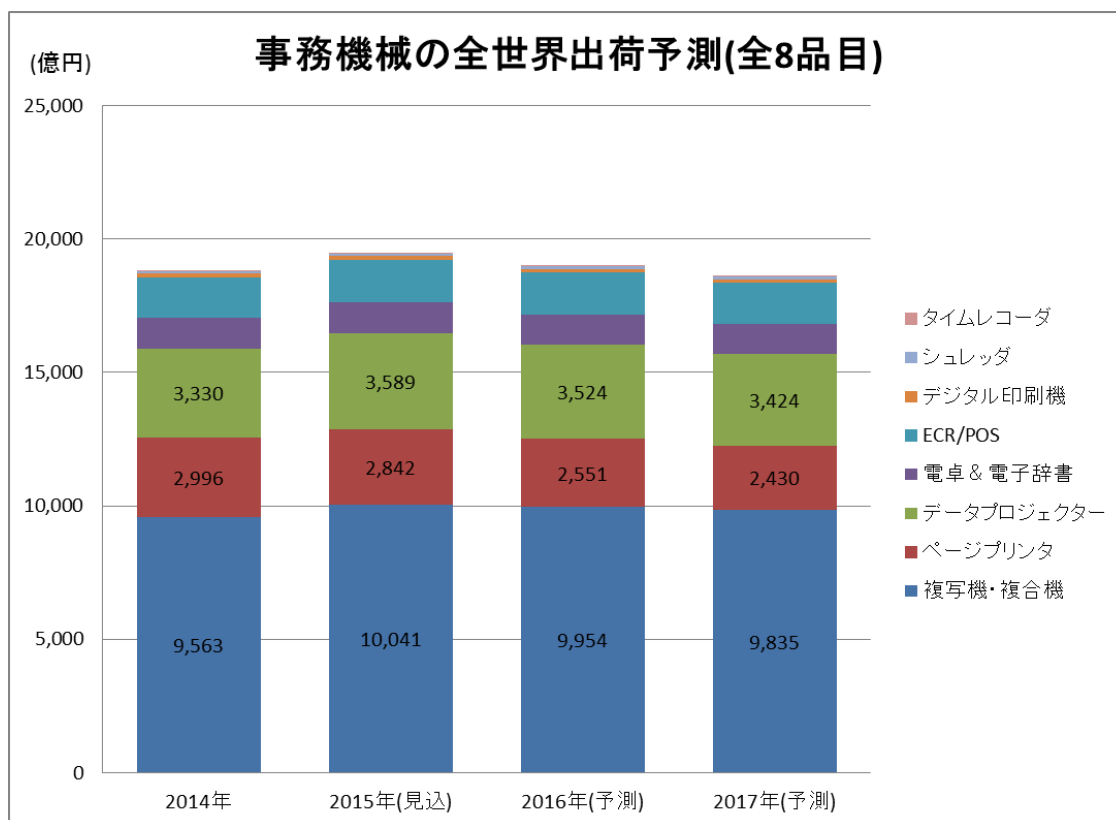
- *本資料の内容は、2015 年 12 月時点における 2015 年実績見込みと 2016 年以降の予測に基づいている。
- *2016 年以降の為替レート前提は、2015 年の実効レートと同等、とした。
- *「複写機・複合機」および「MFP」の対象製品は電子写真方式のみである。
- *「複写機・複合機」、「ページプリンター」、「MFP」の地域別予測における「その他」は中南米、中東、アフリカ、オセアニアである。
- *「電卓」には 100 円均一ショップ等で販売されている海外製の低価格製品は含まない。
- *「ECR/POS」にはパソコン POS は含まない。
- *「タイムレコーダ」はカード印字式タイプのみで、IC カード等を使ったシステムタイプおよびタイムスタンプ（機械式時刻記録機）は含まない。
- *ドキュメントマネージメントシステム（DMS）は、ドキュメントマネージメントにかかわるソフトウェア製品であり、ハードウェアや役務は含まない。

1. 概況



単位：億円

	2014 年		2015 年(見込)		2016 年(予測)		2017 年(予測)	
		前年比		前年比		前年比		前年比
国 内	3,859	97.6%	3,666	95.0%	3,510	95.8%	3,398	96.8%
海 外	14,970	105.1%	15,817	105.7%	15,483	97.9%	15,205	98.2%
合 計	18,829	103.5%	19,483	103.5%	18,993	97.5%	18,603	97.9%



【2015 年】

事務機械全体の総出荷金額は、2014 年水準を超える円安が続いた影響もあり、前年比 3.5%増の見込みとなった。

国内市場においては、景気回復の足取りは若干の足踏み状態となっており、また前年の消費増税需要の反動もあり、複写機・複合機を含む多くの品目の数量・金額が減少傾向で推移しており、全体の数量・金額は減少の見込みとなった。

海外市場においては、需要を牽引してきた中国の景気減速が鮮明となっており、中国周辺のアジア諸国の経済にも影響を与え始めている。また、ロシアやブラジルの経済も停滞気味である。しかし、米国の景気が引き続き緩やかな拡大基調で推移していることや円安の進行が続いたこともあり、全体の数量は微減にとどまり、金額は増加の見込みとなった。

【2016 年以降】

国内市場においては、景気は引き続き横這いから緩やかな回復傾向で推移していくとみられる。企業における事務機の導入は一巡しているが、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、都内周辺におけるオフィスビルの新築や建て直しに伴う事務機需要の増加や新たなサービスビジネスの創出による市場発展も期待されている。

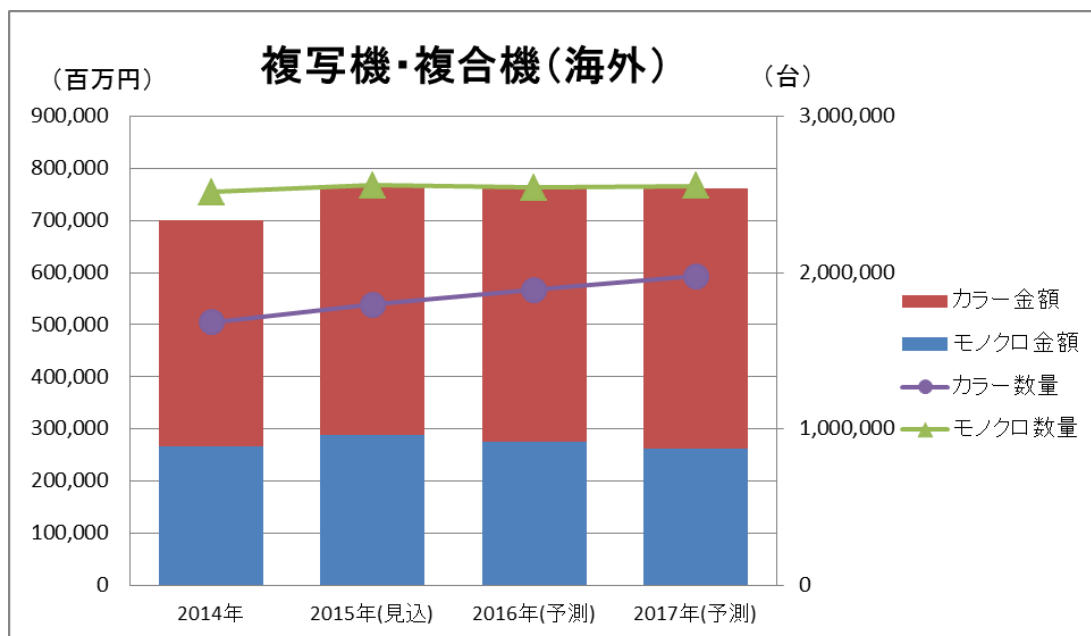
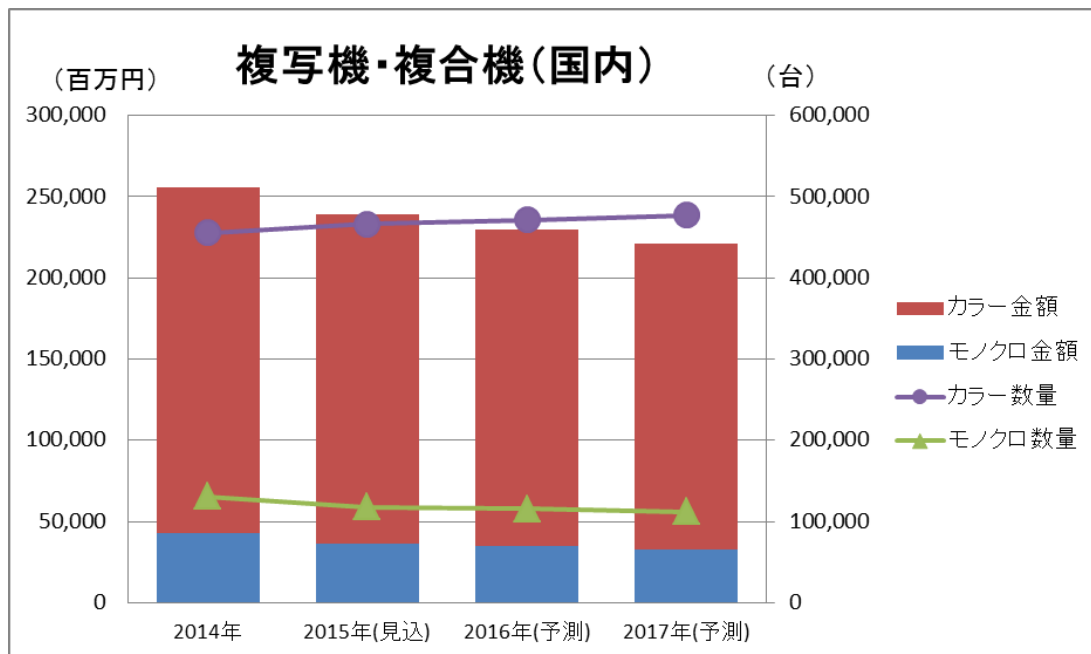
海外市場においては、先進国は、米国の緩やかな景気拡大の持続が期待されているものの、景気回復の途上にある西欧の回復ペースは鈍い。また、新興国においては、中国

景気は減速傾向が当面続くものとみられ、周辺諸国への影響拡大が懸念される。ロシアやブラジルの景気回復ペースも鈍い。以上より、海外市場における事務機の数量・金額はともに微減傾向で推移していくとみられる。

事務機業界全体としては、機器本体に加え、クラウド環境の進展を背景に各種ソフトウェアとの連携強化をベースとしたサービスやソリューションの発展拡大がこれまで以上に重要性を増してくるものとみられる。

2. 品目別予測

(1) 複写機・複合機



【2015 年】

<国内市場>

- ・数量・金額とも減少の見込み。
- ・モノクロ複写機・複合機は数量・金額とも大幅な減少の見込み。

- ・カラー複写機・複合機は数量が増加したものの、金額は減少の見込み。カラー比率は2015年数量ベースで約80%に届く見込み。

<海外市場>

- ・数量・金額とも増加を維持する見込み。
- ・モノクロ複写機・複合機は、新興国市場の減速により伸び率が緩やかとなりつつあるが、カラー複写機・複合機は各地域で堅調に推移し、カラー比率は2015年数量ベースで40%強となる見込み。
- ・サイズ別では、A4複写機・複合機のニーズが高まっており、各地域で増加する見込み。

【2016年以降】

<国内市場>

- ・複写機・複合機の出荷が一巡しているため、数量は横這い、金額は徐々に減少していくと予測される。

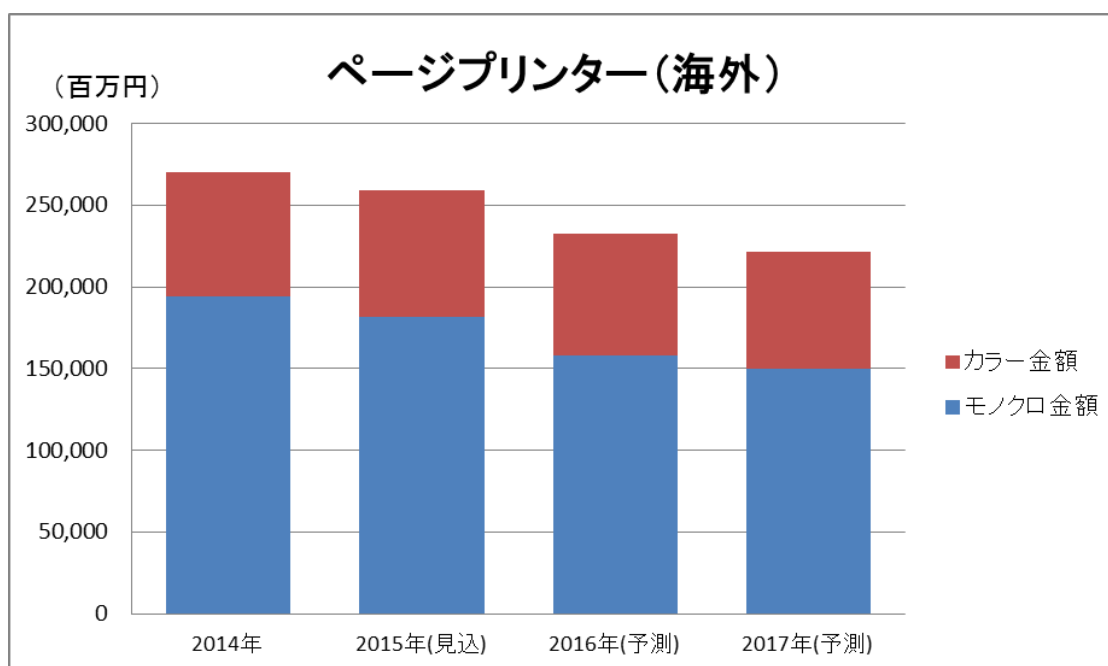
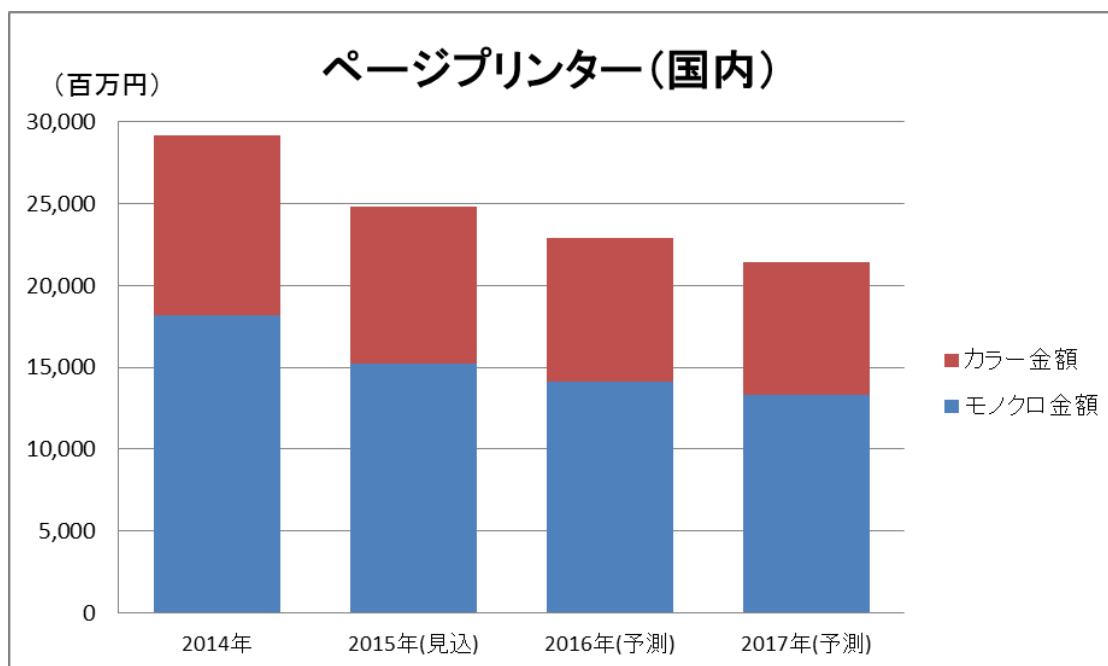
<海外市場>

- ・欧米市場はA4複写機・複合機の数量増加とソリューション販売の拡大、アジア・その他地域市場においてはA3複写機・複合機の数量拡大が期待されている。

【今後の動向】

- ・複写機・複合機業界全体としては、機器販売と消耗品の供給・機器の修理により利益を得るといった従来のビジネスモデルを超え、複写機・複合機とクラウドやソフトウェアとの連携をベースとしたITサービス・ソリューションにより収益を上げていくという新たなビジネスモデルの構築・展開が急務となっている。

(2) ページプリンター（単機能機）



【2015 年】

< 国内市場 >

- ・モノクロ機、カラー機ともに数量・金額とも減少の見込み。
- ・更新需要が中心となっており、かつ A3 複合機への集約や A4 複合機とのシフトが進むなど増加要因は少ないと見込まれる。

＜海外市場＞

- ・カラー機の数量・金額は微増するが、モノクロ機の数量・金額が大幅に減少し、全体でも減少の見込み。
- ・欧米において A3 複合機への集約や A4 複合機へのシフトが進んでいることに加え、ここ数年の需要を支えてきたアジア・その他地域の出荷が、景気停滞の影響を受け急減すると見込まれる。

【2016 年以降】

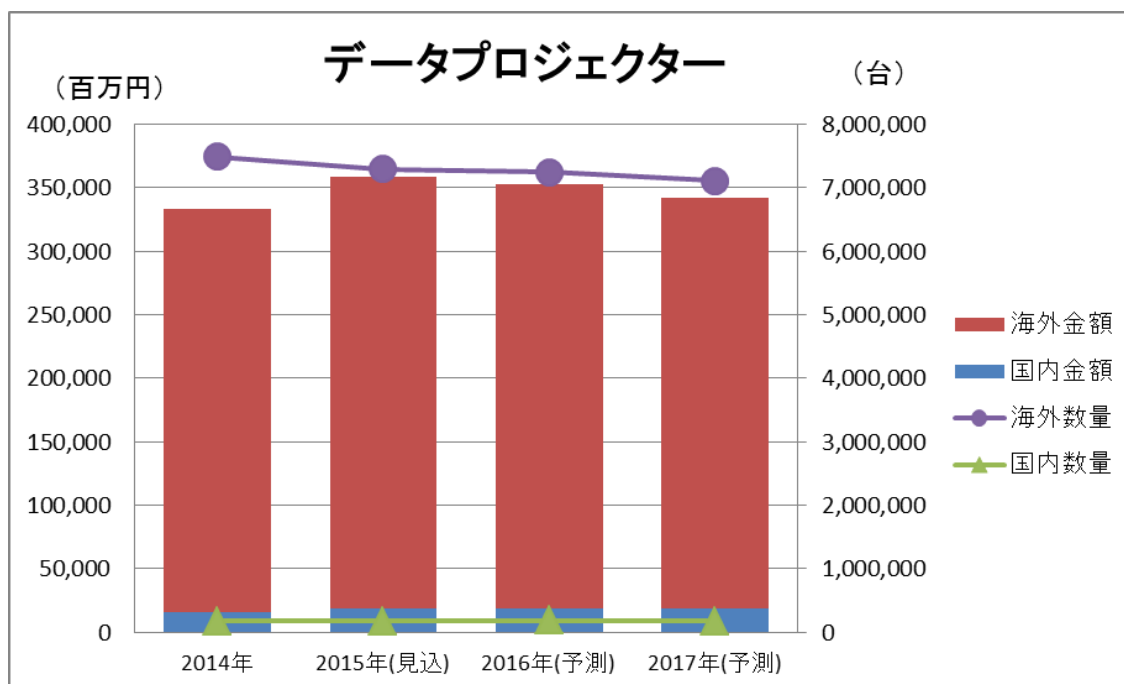
＜国内市場＞

- ・数量・金額とも減少が続くが、減少率は徐々に緩やかになっていくと予測される。

＜海外市場＞

- ・欧米は数量・金額とも減少が続くと予測される。
- ・アジア・その他地域における減少率は 2016 年以降、緩やかになっていくと予測される。

(3) データプロジェクター



【2015 年】

< 国内市場 >

- ・企業向け、文教向けとも大きな需要増加の要因はないが、数量は微増を維持、金額は大幅増の見込み。各社の高価格帯の製品の販売が比較的堅調である。

< 海外市場 >

- ・数量減少、金額増加の見込み。
- ・地域別では、北米が堅調に推移しているが、前年好調の欧州と中国の出荷が低調に推移した。金額の増加要因としては、円安の影響が大きい。

【2016 年以降】

< 国内市場 >

- ・数量ではほぼ横這い、金額で微増が続くと予測される。
- ・海外市場と比較すると、文教向けの普及率が低く、企業向けでも大企業の会議室用などで普及の余地はあるものの、いずれも大きな需要増加にはつながらない。
- ・2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けては、デジタルサイネージ用途で大型製品の案件増加が期待される。

< 海外市場 >

- ・欧米市場はほぼ一巡しているため更新需要が中心となると予測される。
- ・新興国市場は増加の期待もあるが、フラットディスプレイパネルとの競合する場合が増えてくると予測される。

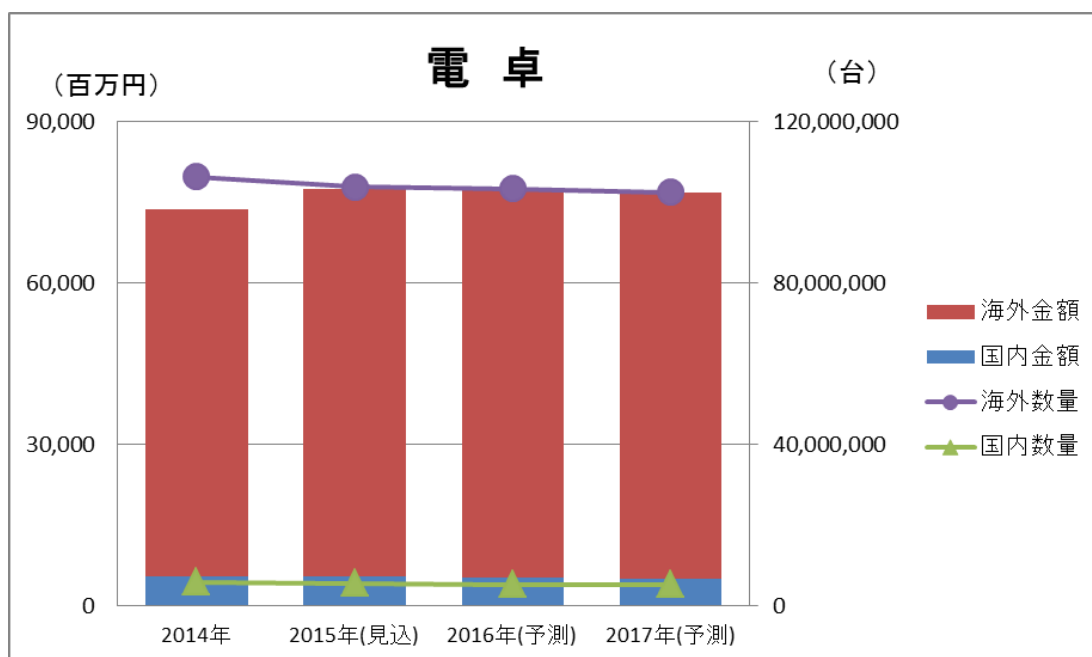
- ・ このため、海外市場全体では数量・金額とも微減していくと予測される。

【今後の動向】

- ・ 機能的には、短焦点、投射画面のワイド化、高解像度、高輝度などの高機能化に加え、スマートデバイスとの連携機能、インタラクティブ機能の搭載が進んでいる。
- ・ 光源は従来の水銀ランプの代わりに、レーザーを採用する機種が増えつつある。
レーザーは環境負荷低減が期待できることに加え、長寿命の性能を付与できるため、従来の多灯式ランプの機器の置き換えニーズに対応できることから今後も需要が拡大していくと見られる。

（４）電卓&電子辞書

（４－１）電卓



【2015 年】

< 国内市場 >

- ・消費税率変更に対応した新製品の特需により前年は久しぶりの増加となったが、2015 年は数量・金額とも再び減少する見込み。

< 海外市場 >

- ・先進国における表示式電卓の需要は日本同様に飽和しており、数量・金額とも減少していく見込み。一方、欧米の学生向けの関数電卓は堅調な需要が続いている。
- ・中国を含む新興国市場については需要が拡大しているが、日本メーカーにとっては採算面が厳しく、大きな需要増加にはつながっていない。

【2016 年以降】

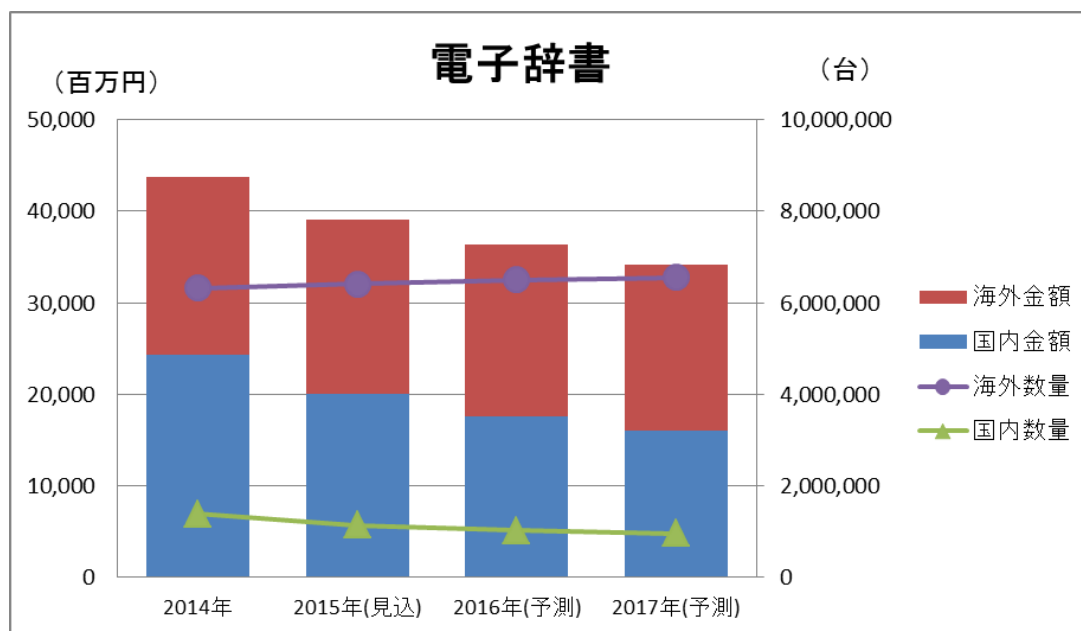
< 国内市場 >

- ・増加要因が少なく減少傾向で推移していくと予測される。
- ・2017 年 4 月に予定されている消費税引き上げについては、2014 年に出荷された製品に税率設定機能が付いていることや 10% という計算しやすい税率のため買い替えの契機にはなりにくいと予測される。

< 海外市場 >

- ・表示式電卓においては、新興国市場向けで需要が増加しているが、先進国市場が飽和しているため、海外全体では微減傾向で推移していくと予測される。
- ・関数電卓においては当面は微増傾向で推移していくと予測される。

（４－２）電子辞書



【2015 年】

<国内市場>

- ・数量・金額ともに大幅な減少が続く見込み。
- ・スマートフォンやタブレットの普及によりビジネス向け、シルバー層向けの電子辞書離れが続いており、販売は学生向けが中心となっている。

<海外市場>

- ・中国、東南アジア、ヨーロッパの一部などの市場が中心。数量増加・金額微減で推移する見込み。
- ・中国が世界最大の市場であるが、中国メーカーの製品が大半を占める。

【2016 年以降】

<国内市場>

- ・外国人観光客の増加、グローバル人材の育成、小学生の英語教育の低年齢化など国内における英語教育熱は高まってきており、学生向け需要は底堅いと予測される。
- ・主な使用層となっている全国の高校生数は長期的には減少傾向にあるものの、今後数年は減少に一定の歯止めがかかっているため、2020 年までの減少率は徐々に緩やかになっていくと予測される。

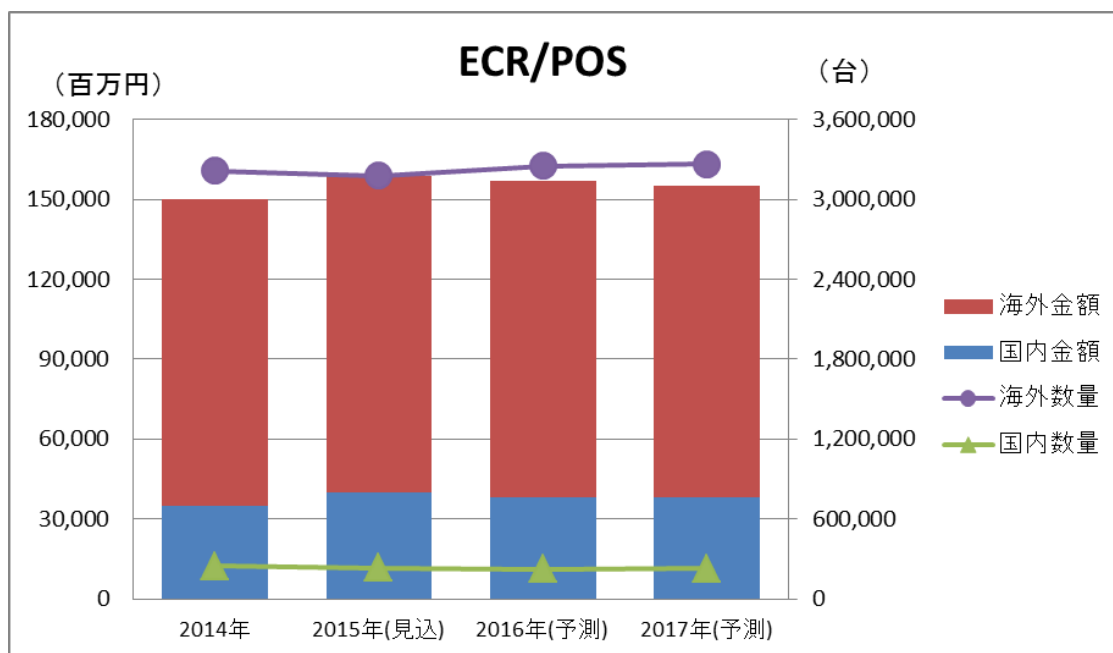
<海外市場>

- ・現地メーカーの製品を中心に数量は増加、金額は減少していくと予測される。
- ・日本メーカーは現地メーカーにはない高機能ニーズに対応することで一定の需要確保を目指す。

【今後の動向】

- ・機能面では、コンテンツの拡張機能に加え、多言語対応、リスニングアプリなど多機能化が進んでいる。スマートフォンとの差別化として、内容の正確性とより詳細な情報の提供などの強みもある。

(5) ECR/POS



【2015 年】

<国内市場>

- ・ POS の出荷は堅調に推移しているが、ECR は消費増税特需により大幅に増加した前年の反動により大幅な減少傾向となる見込み。

<海外市場>

- ・ 数量減少・金額増加の見込み。
- ・ 先進国は、国内市場同様、更新需要が中心のため数量・金額とも増加要因は少ない。
- ・ 新興国は成長市場であるが、パソコン POS が主流のため、据え置きタイプの ECR/POS の台数は減少する見込み。

【2016 年以降】

<国内市場>

- ・ 数量・金額とも減少傾向で推移すると予測される。
- ・ 特に ECR はタブレットを使った簡易 POS システムに需要を奪われつつあり、今後とも減少が続くと予測される。

<海外市場>

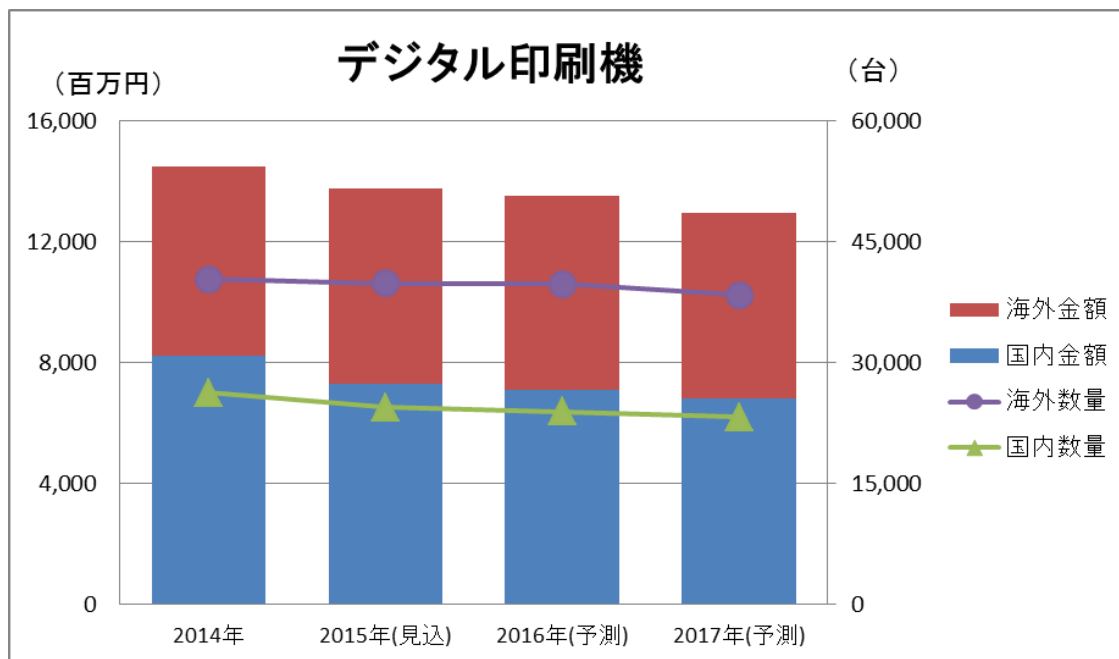
- ・ 先進国市場においては、ECR はタブレット POS に需要を奪われている点は国内市場と同様、減少傾向で推移すると予測される。
- ・ POS も日本同様の更新市場であるが、2015 年から 2017 年にかけて欧州各国で税制改革が予定されており、需要増加への期待が高い。
- ・ 新興国市場においてはパソコン POS 中心の需要が続くと予測される。

【今後の動向】

- ・業界全体としては、外国人客の増加に対応するための IC クレジット対応などの電子決済システム、外国人や高齢者店員の増加に対応する監視カメラシステムのソリューションや自動釣銭機の普及が進むとみられる。

※軽減税率については、予測時に導入未定であったため考慮していない。

(6) デジタル印刷機



【2015 年】

<国内市場>

- ・数量・金額とも減少の見込み。
- ・学校・自治体の更新需要は根強いいため、減少率は比較的緩やかになる見込み。

<海外市場>

- ・数量減少・金額増加の見込み。
- ・中国以外のインド、インドネシア、マレーシアなどの需要が増加する見込み。

【2016 年以降】

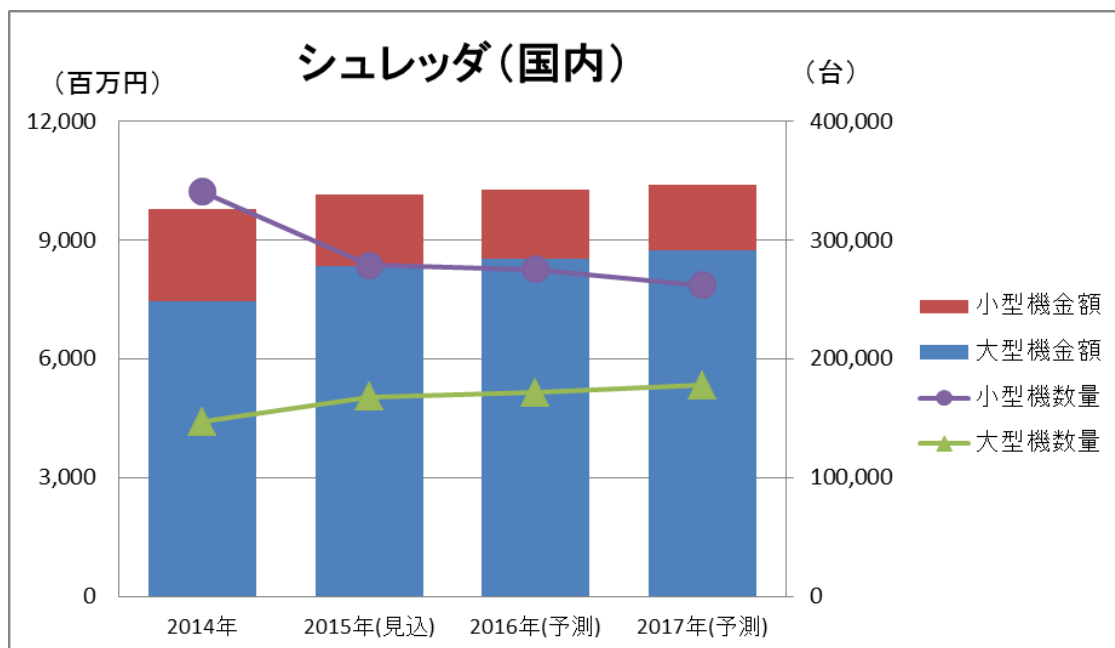
<国内市場>

- ・数量・金額とも減少すると予測される。

<海外市場>

- ・数量・金額とも減少傾向で推移していくと予測される。
- ・市場全体が飽和気味となっており、増加要因は少ない。

(7) シュレッダ



【2015 年】

< 国内市場 >

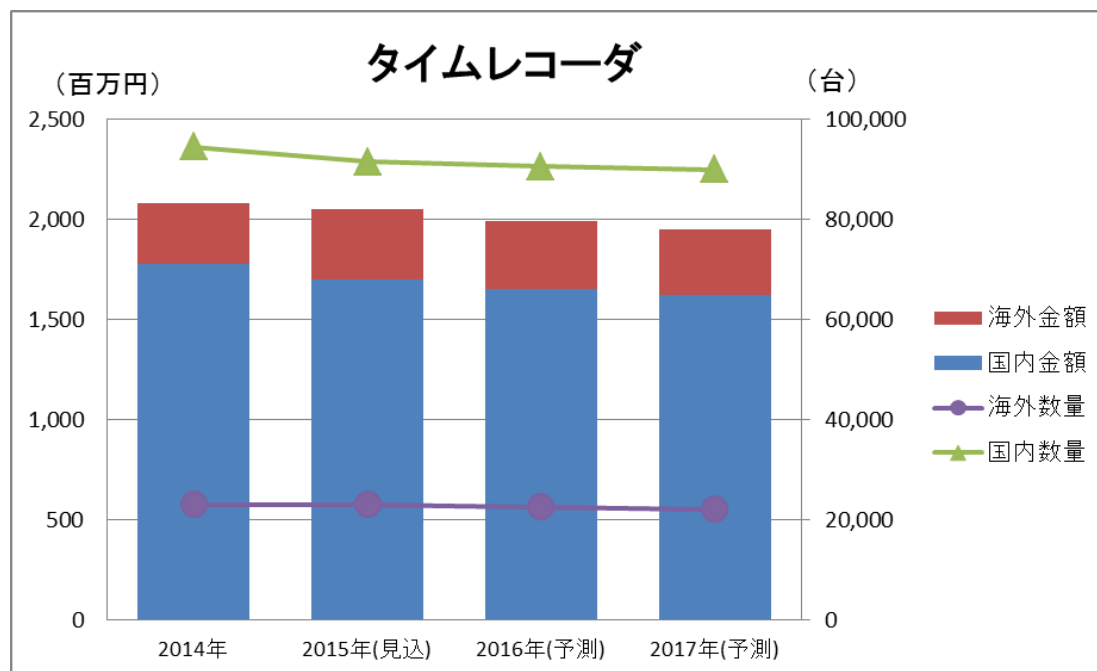
- ・大型機は数量・金額とも大幅増加の見込み。一般オフィス向け、官庁向けでの安定した更新需要が続いている。マイナンバー制の導入も若干の増設要因となっている。
- ・小型機は数量・金額とも大幅減少の見込み。カード明細書等のペーパーレス化が進んでいるため、パーソナル向けでは買い替えが進まない状況となっている。

【2016 年以降】

< 国内市場 >

- ・大型機は微増傾向で推移していくと予測される。都市部を中心にオフィスの建て替えや新設に伴うオフィスの大型化・集約化などが進み、大型シュレッダの導入につながっていく。
- ・小型機は微減傾向で推移すると予測される。各種明細書のペーパーレス化の流れは止まらないため、パーソナル向けを中心とする買い替え需要は頭打ちとなっていく。

(8) タイムレコーダ



【2015 年】

< 国内市場 >

- ・数量・金額とも微減の見込み。
- ・中小規模の事業所ではカード印字式タイムレコーダの需要は底堅く、安定した出荷が続いている。

< 海外市場 >

- ・数量横這い、金額は大幅増加の見込み。
- ・大口案件等により数量を維持し、金額の増加は円安の影響が大きい。

【2016 年以降】

< 国内市場 >

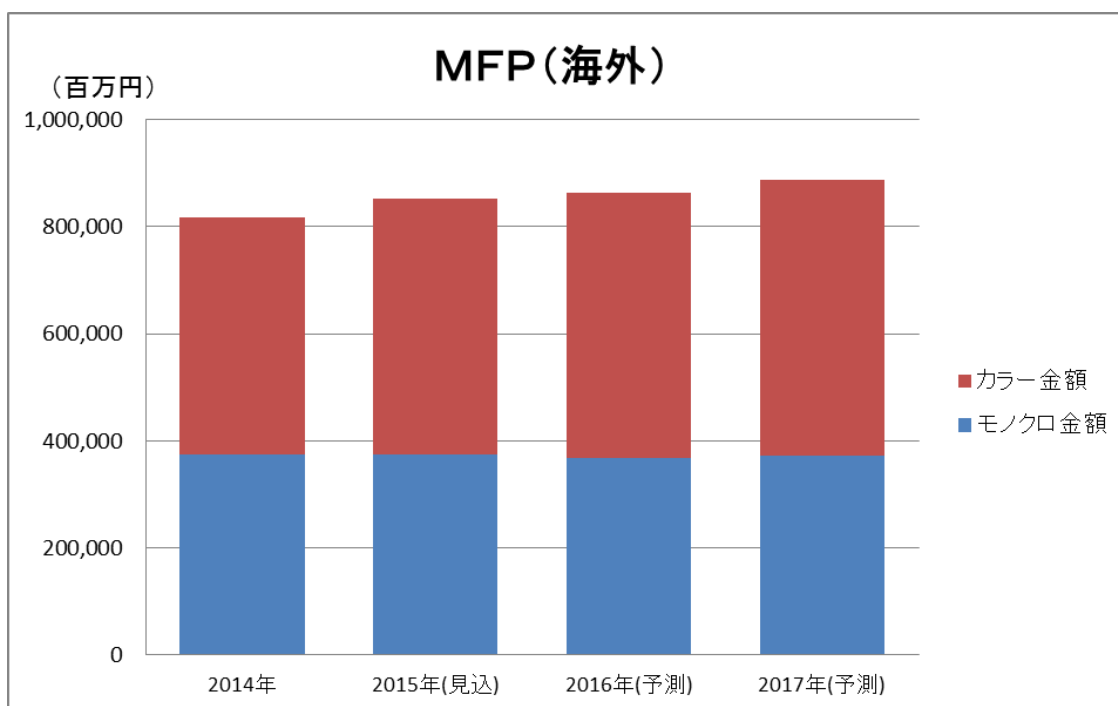
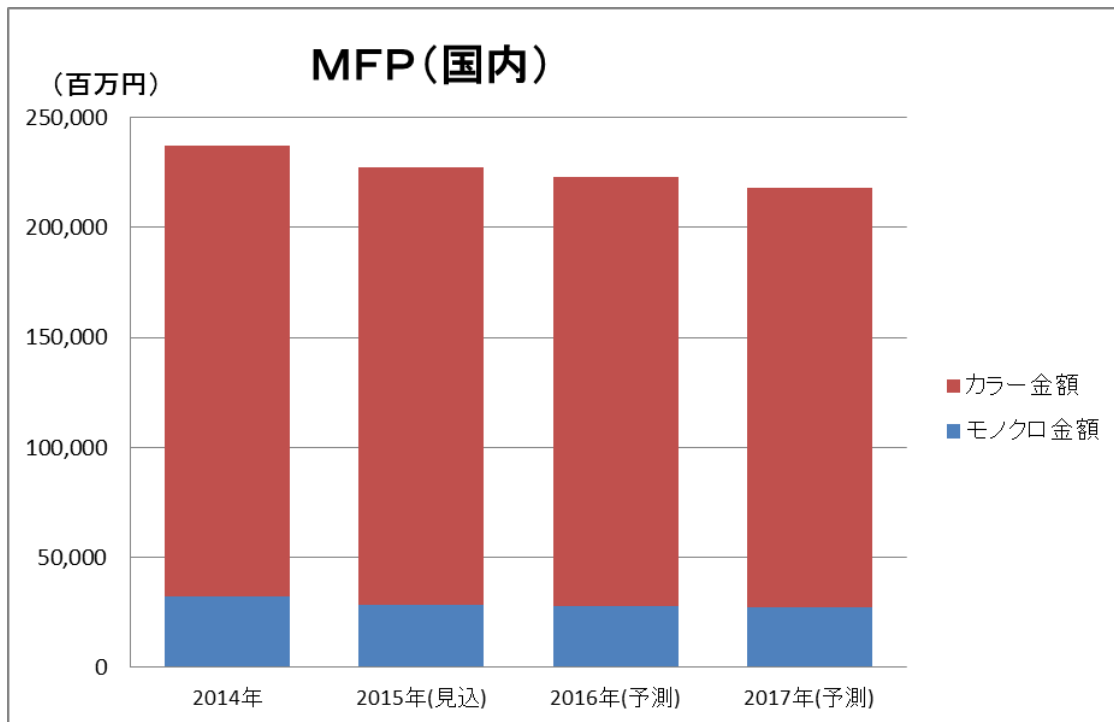
- ・数量は微減から横這い、金額は微減で推移していくと予測される。
- ・大規模事業所では IC カード等を使ったシステムタイプの勤怠管理も増えているが、タイムレコーダは低価格であるため導入が容易であることや労働者自身による現場確認が可能、記録保管の確実性、記録の客観性確保などメリットも多く、現状程度の数量は維持していくと予測される。

< 海外市場 >

- ・数量は横這いから微減、金額は減少傾向で推移していくと予測される。
- ・欧米（特に北米）の勤労管理はタイムスタンプ（機械式時刻記録機）方式が主流であり、タイムレコーダの市場規模は小さい。
- ・世界最大の中国市場では現地メーカーの製品シェアが高い。

3. 参考

(1) MFP



【2015 年】

＜国内市場＞

- ・数量・金額とも減少の見込み。

＜海外市場＞

- ・海外市場はこれまでは増加傾向で推移してきたが、2015 年は金額では円安影響により増加を維持するが、数量は欧州やアジア市場の低迷により減少の見込み。
- ・特に低価格 A4MFP の数量が大幅に減少している。

【2016 年以降】

＜国内市場＞

- ・数量でほぼ横這い、金額は微減で推移していくと予測される。

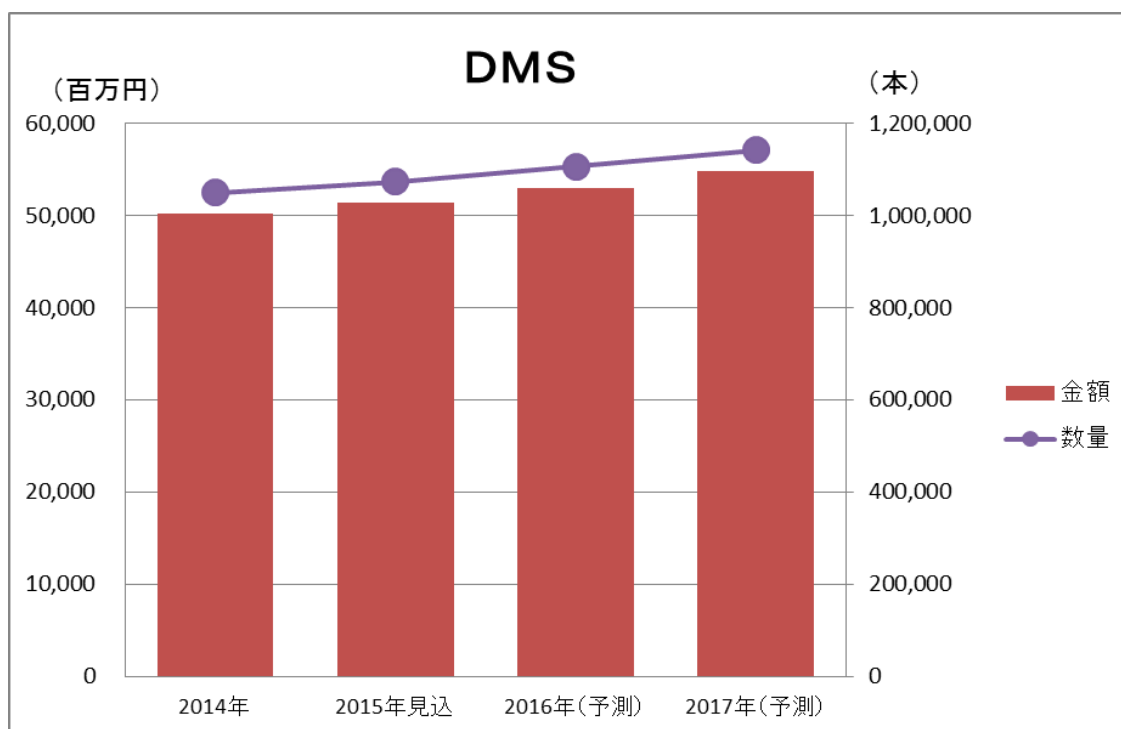
＜海外市場＞

- ・2016 年まで減少が続き、2017 年は増加に転ずると予測される。
- ・景気減速の影響が当面は続く可能性が高く、以前のような高い成長率に戻るのには時間を要すると予測される。

【今後の動向】

- ・業界全体としては、A3MFP においては、先進的なユーザーインターフェイスの搭載やクラウド連携などソリューションビジネスへの対応強化が進む。また、A3MFP と同様のコントローラーを搭載した高機能 A4MFP の販売が拡大していくとみられる。

(2) DMS (Document Management System)



【2015 年】

- ・大手企業では、電子帳簿保存法の改正をきっかけにドキュメント管理システムの改修や拡張を検討する動きが出てきている。
- ・中堅・中小企業では、Windows Server 2003 の保守切れに関連したバージョンアップ対応などの動きはあるもののドキュメント管理に関する投資は限定的になっている。マイナンバーに対応するための会計システムの改修やセキュリティ対策に費用と労力がさかれてしまったことが原因である。

【2016 年以降】

- ・電子帳簿保存法の改正が市場に影響を与え始めるのは 2016 年からとなる。(EDMS/ECM 市場から) 中堅・中小企業は 2016 年からスキャナ保存への対応の検討を始め、具体的に市場に影響が表れるのは 2017 年以降となるが、WG-DMS 市場でも動きが出てくる予測から、全体市場への影響は本格化していくと予測される。
- ・クラウドに於いては、従来型のドキュメント管理システムではプライベートクラウド (オンプレミス型、ホスティング型) で使うユーザーが主流となる。
- ・外部企業とドキュメントのやりとりをするために SaaS を利用するユーザーが出てきているが、まだ数は少ない。汎用的なドキュメント管理 SaaS の利用は広まっておらず、メーカーも普及に関しては懐疑的である。SaaS を推進するには対象業務の絞り込みや業種特化システムへの組み込みなど工夫が求められる。

*調査会社：(株)データ・サプライ（全８品目、参考 MFP）
 (株)テクノ・システム・リサーチ（DMS）

以上

本件に関するお問い合わせ先：
一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会
統計委員会事務局 岡野聖史
広報担当 横森 聡、冠野博信
（TEL：03-6809-5010、FAX：03-3451-1770）

事務機械の「全世界出荷に関する2015年の見込み及び2016～2017年の予測」

単位：百万円、台、％

品目			平成27(2015)年見込				平成28(2016)年予測				平成29(2017)年予測				
			金額	前年比	数量	前年比	金額	前年比	数量	前年比	金額	前年比	数量	前年比	
複写機・複合機	モノクロ複写機・複合機	国内	36,570	85.0%	117,800	89.8%	34,610	94.6%	115,400	98.0%	32,450	93.8%	112,000	97.1%	
		海外	287,700	107.9%	2,556,950	101.7%	275,500	95.8%	2,543,350	99.5%	263,000	95.5%	2,553,250	100.4%	
		合計	324,270	104.7%	2,674,750	101.1%	310,110	95.6%	2,658,750	99.4%	295,450	95.3%	2,665,250	100.2%	
	カラー複写機・複合機	国内	202,300	95.0%	466,000	102.3%	195,000	96.4%	471,400	101.2%	189,000	96.9%	477,000	101.2%	
		海外	477,500	110.1%	1,794,350	106.6%	490,300	102.7%	1,889,300	105.3%	499,000	101.8%	1,976,900	104.6%	
		合計	679,800	105.1%	2,260,350	105.7%	685,300	100.8%	2,360,700	104.4%	688,000	100.4%	2,453,900	103.9%	
	合計	国内	238,870	93.3%	583,800	99.5%	229,610	96.1%	586,800	100.5%	221,450	96.4%	589,000	100.4%	
海外		765,200	109.3%	4,351,300	103.6%	765,800	100.1%	4,432,650	101.9%	762,000	99.5%	4,530,150	102.2%		
		合計	1,004,070	105.0%	4,935,100	103.1%	995,410	99.1%	5,019,450	101.7%	983,450	98.8%	5,119,150	102.0%	
ページプリンタ	モノクロ機	国内	15,220	83.9%			14,110	92.7%			13,300	94.3%			
		海外	181,800	93.6%			158,000	86.9%			149,800	94.8%			
		合計	197,020	92.8%	14,499,000	89.2%	172,110	87.4%	12,824,000	88.4%	163,100	94.8%	12,540,000	97.8%	
	カラー機	国内	9,610	87.1%			8,810	91.7%			8,110	92.1%			
		海外	77,600	101.9%			74,200	95.6%			71,800	96.8%			
		合計	87,210	100.0%	2,991,400	100.5%	83,010	95.2%	2,899,400	96.9%	79,910	96.3%	2,870,300	99.0%	
	合計	国内	24,830	85.1%			22,920	92.3%			21,410	93.4%			
海外		259,400	95.9%	232,200			89.5%	221,600			95.4%				
		合計	284,230	94.9%	17,490,400	91.0%	255,120	89.8%	15,723,400	89.9%	243,010	95.3%	15,410,300	98.0%	
データプロジェクター			国内	18,360	114.5%	176,000	103.7%	18,640	101.5%	177,500	100.9%	18,820	101.0%	177,000	99.7%
			海外	340,500	107.4%	7,300,000	97.5%	333,800	98.0%	7,250,000	99.3%	323,600	96.9%	7,108,000	98.0%
			合計	358,860	107.8%	7,476,000	97.6%	352,440	98.2%	7,427,500	99.4%	342,420	97.2%	7,285,000	98.1%
電卓 & 電子辞書	電卓	国内	5,450	97.9%	5,568,000	95.0%	5,150	94.5%	5,290,000	95.0%	5,000	97.1%	5,250,000	99.2%	
		海外	72,000	105.6%	103,826,000	97.7%	72,000	100.0%	103,365,000	99.6%	71,700	99.6%	102,530,000	99.2%	
		合計	77,450	105.0%	109,394,000	97.6%	77,150	99.6%	108,655,000	99.3%	76,700	99.4%	107,780,000	99.2%	
	電子辞書	国内	20,000	82.5%	1,139,500	82.0%	17,600	88.0%	1,025,000	90.0%	16,000	90.9%	953,800	93.1%	
		海外	19,090	97.9%	6,408,000	101.4%	18,710	98.0%	6,503,000	101.5%	18,160	97.1%	6,550,500	100.7%	
		合計	39,090	89.4%	7,547,500	97.9%	36,310	92.9%	7,528,000	99.7%	34,160	94.1%	7,504,300	99.7%	
	合計	国内	25,450	85.4%	6,707,500	92.5%	22,750	89.4%	6,315,000	94.1%	21,000	92.3%	6,203,800	98.2%	
海外		91,090	103.9%	110,234,000	97.9%	90,710	99.6%	109,868,000	99.7%	89,860	99.1%	109,080,500	99.3%		
		合計	116,540	99.2%	116,941,500	97.6%	113,460	97.4%	116,183,000	99.4%	110,860	97.7%	115,284,300	99.2%	
ECR/POS (金銭登録機)		国内	39,900	113.6%	234,200	95.0%	38,100	95.5%	226,300	96.6%	38,300	100.5%	230,000	101.6%	
		海外	118,750	103.2%	3,178,800	98.9%	119,000	100.2%	3,253,000	102.3%	117,000	98.3%	3,263,000	100.3%	
		合計	158,650	105.6%	3,413,000	98.6%	157,100	99.0%	3,479,300	101.9%	155,300	98.9%	3,493,000	100.4%	
デジタル印刷機		国内	7,310	89.0%	24,420	93.0%	7,090	97.0%	23,930	98.0%	6,800	95.9%	23,210	97.0%	
		海外	6,445	102.9%	39,800	98.7%	6,410	99.5%	39,750	99.9%	6,135	95.7%	38,360	96.5%	
		合計	13,755	95.0%	64,220	96.5%	13,500	98.1%	63,680	99.2%	12,935	95.8%	61,570	96.7%	
シュレツダ	大型機	国内	8,350	112.2%	168,000	114.1%	8,530	102.2%	171,800	102.3%	8,750	102.6%	177,500	103.3%	
	小型機	国内	1,800	76.9%	279,000	82.0%	1,750	97.2%	275,000	98.6%	1,650	94.3%	262,000	95.3%	
	合計	10,150	103.8%	447,000	91.7%	10,280	101.3%	446,800	100.0%	10,400	101.2%	439,500	98.4%		
タイムレコーダ		国内	1,700	95.7%	91,500	96.9%	1,650	97.1%	90,500	98.9%	1,620	98.2%	90,000	99.4%	
		海外	350	114.8%	23,000	100.2%	340	97.1%	22,500	97.8%	330	97.1%	22,000	97.8%	
		合計	2,050	98.5%	114,500	97.5%	1,990	97.1%	113,000	98.7%	1,950	98.0%	112,000	99.1%	
総合計		国内	366,570	95.0%			351,040	95.8%			339,800	96.8%			
		海外	1,581,735	105.7%			1,548,260	97.9%			1,520,525	98.2%			
				合計	1,948,305	103.5%			1,899,300	97.5%			1,860,325	97.9%	

【参考1】

単位：百万円、台、％

品目			平成27(2015)年見込				平成28(2016)年予測				平成29(2017)年予測			
			金額	前年比	数量		前年比	金額	前年比	数量		前年比	金額	前年比
MFP	モノクロ機	国内	28,400	87.3%			27,900	98.2%			27,200	97.5%		
		海外	373,500	99.9%			367,000	98.3%			373,000	101.6%		
		合計	401,900	98.9%	15,168,150	94.0%	394,900	98.3%	14,422,550	95.1%	400,200	101.3%	14,456,350	100.2%
	カラー機	国内	198,700	97.0%			195,000	98.1%			191,000	97.9%		
		海外	478,700	107.8%			495,800	103.6%			513,800	103.6%		
		合計	677,400	104.4%	4,746,000	98.8%	690,800	102.0%	4,799,500	101.1%	704,800	102.0%	4,991,100	104.0%
	合計	国内	227,100	95.7%			222,900	98.2%			218,200	97.9%		
		海外	852,200	104.2%			862,800	101.2%			886,800	102.8%		
		合計	1,079,300	102.3%	19,914,150	95.1%	1,085,700	100.6%	19,222,050	96.5%	1,105,000	101.8%	19,447,450	101.2%

※JBMAIにおけるMFPとは、PC(ネットワーク)接続を前提とした電子写真方式のプリンタ機能を標準で装備し、更にコピーかスキャナかファクシミリのいずれか1つ以上の機能を標準装備している製品である。

【参考2】

単位：本、百万円

品目		平成27(2015)年見込				平成28(2016)年予測				平成29(2017)年予測			
		金額	前年比	数量	前年比	金額	前年比	数量	前年比	金額	前年比	数量	前年比
DMS		51,354	102.2%	1,073,145	102.3%	53,006	103.2%	1,106,331	103.1%	54,866	103.5%	1,141,655	103.2%

※ドキュメントマネージメントシステム(DMS)には、ドキュメントマネージメントにかかわるソフトウェア製品であり、ハードウェアや役務を含まない。